



センターニュースをお読みの皆様へ

一足早く暑い夏がやってまいりました。島田療育センターでは内外で様々な研修を行っています。コロナ禍により大人数を集めて講義をするような形式は激減し、オンラインで参加する講義や、ZOOMなどを活用して他の参加者とつながるような方式が増えております。このような流れに対応すべく、学術研究・研修部では他部署のご理解ご協力の下、研修環境の構築、整備に取り組んでおります。病棟内でのタブレットを用いた研修、研修ポータル構築、PC

ブースの増設など、兼務にも関わらず熱心に取り組むスタッフが協力して手作りで作り上げてきました。教育研修の効果はすぐ出るものではありませんが、5年後10年後の当センターを形作るものと考えて取り組んで参ります。



副院長
学術研究・研修部 部長
有本 潔

6病棟1班 犬遠足を実施しました

5月26日(木)「水族館」をテーマに厚生棟研修室で大遠足を行ないました。入口に設置された海のトンネルを通るだけで利用者様はもう笑顔がこぼれ、ワクワクが止まりません。

午前中はアクアドーム制作…利用者様の個性あふれる作品ができました。午後はアシカショーと海のスヌーズレンです。スヌーズレンでは利用者様が制作したアクアドームも幻想的な光を発して、本当に海の中にいるようでした。

「コロナ禍でなかなか外出できない利用者様に特別な一日を！」と何ヶ月も前から準備をした大遠足。利用者様はたくさんの笑顔で応えてくれた素敵な一日になりました。

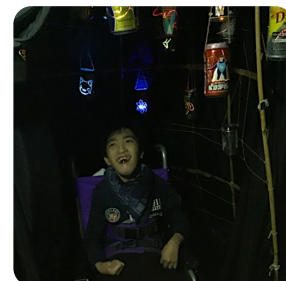
(第6病棟療育主任 美保 弘輔)



3病棟西棟 犬遠足を実施しました

6月9日(木)3病棟西棟大遠足を開催しました。どなたも体調を崩すことなく全員で参加することができました。今回のテーマは「昭和レトロフェスティバル」。病棟内は、昭和のポスターなどが並び、ちょっぴりタイムスリップしたような感覚に…。厚生棟にお出掛けして、夜店の金魚店や夏祭りの雰囲気味わいました。病棟内では、射的やおみくじ・オリジナルうちわ作りを楽しみました。皆さん、目をパッチリ開けてそれぞれの方のペースで過ごされる中、ゆったりと昭和のお祭りが過ぎて行きました。

(第3病棟療育主任 宮沢 直美)



オンラインイベント を6つの病棟に 配信しました

7月3日(日)「夏のピアノ ソロコンサート」が厚生棟内で催され、全病棟にLIVE配信されました。今回は多摩市在住の松本秀子様を奏者としてお迎えし、七夕や夏にちなんだ季節の曲を演奏していただきました。指導者としての実績もあり、その丁寧な語り口と優しい曲の流れには、ふっと引き込まれる魅力のあるコンサートでした。

利用者の皆様の中には、「演奏に合わせて腕を動かして聴いていらっしゃる方や音色が醸し出す穏やかな雰囲気気持ちよだねている方がいらっしゃった」と報告がありました。利用者の皆様だけではなく職員も安らぎを感じた時間でした。

(療育部療育長 清水 信夫)



お花屋さんがやってくる

7月6日(水)「お花を届けるボランティア活動」がデイケアセンターで催され、通所されている幼児部の皆様にお花をプレゼントすることができました。

花々の中からお気に入りの一本を探すかわりの中に、目を合わせ、言葉を交わし、子どもたちを中心に和やかなコミュニケーションが生れていました。黄色いガーベラに手を伸ばす方、赤いお花だけに視線を向ける方、子どもたちそれぞれに興味の示し方の違いをあらためて発見する機会となりました。

この活動は医療機関に通う子どもたちにお花をプレゼントする取り組みで、ボランティアとともに花の販売を行う会社が行っているものです。お花を通じて人と人が笑顔を咲かせる、そんな素敵な時間が社会の中で広がることを願っています。

(療育部療育長 清水 信夫)



ファンタスカー Fantas Carで広がる世界

セイコーエプソン「ゆめ水族園」様より「ファンタスカー」を2台お借りしました。水の中の美しい映像・プロジェクター・音響システムが一つのワゴンにまとめられていて、壁や天井・スクリーンなどに投影することができる優れたものです。病棟それぞれに工夫を凝らしながらいろいろな場所で投影をして楽しみました。

天井に大きく映し出された魚の姿を目で追っている様子や「おさかな」と声を上げながら職員に伝えたり、指さしをしながらアピールをしたり、手を伸ばして捕まえようとしている利用者様もいたようです。タコなどの映像は、鮮明で大きく映し出される迫力ある映像にちょっと驚いてしまった利用者様もいたようです。利用者様の反応やリラックスして過ごされている様子と共に職員からの反響も多く聞かれました。貸出期間をほぼフル活用で全ての病棟とデイケアセンターの活動で使用することができ、また機会があればぜひお借りして楽しみたいとの声が多く聞かれました。このよ

うな体験をさせていただいたセイコーエプソン様に感謝です。ありがとうございました！

(療育部療育長 川澄 敦)



ダウン症児グループ指導



6月26日(日)、2022年度ダウン症児グループの交流会を開催しました。当センター言語聴覚療法科では、乳幼児ダウン症グループ指導(通称:ほっぺグループ)を1995年から29年間実施しており、毎年夏頃に現役生・卒業生とその親御様を対象に、交流会を開催してきました。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、去年一昨年と交流会が開催できませんでしたが、今年度は感染対策のもと、お子さんの年齢に応じて開催を2回に分け、参加者も親御様のみとさせていただくなど、参加者の皆様のご協力もあり、無事開催することができました。

ほっぺグループ
交流会2022

第一回目は、グループを卒業された高校生～就労された方までの幅広い年齢層のお子さんの親御様にご参加いただきました。お子さんの近況報告の中で、「4月に特別支援学校高等部へ入学しました。通学の練習をしています。」「作業所で、お菓子の箱の組み立てなどの作業を頑張っています!」等、現在のご様子を教えてくださいました。一方で、「コロナ禍で大好きだったダンスの習い事ができなくなってしまった…」「外に出る機会が減り、体調管理が心配」「コロナ禍で作業所などに実習に行ける期間が短くなっている」といったお話

もありました。コロナ禍でのお子さんの余暇の過ごし方や進路決定の流れについて、経験談をお聞きしたり、住んでいる地域に近いこともあり、学校や放課後サービス、作業所の情報を交換できる有意義な機会となりました。

ダウン症のお子さんを持つ親御様同士、共感し合えるお話がたくさんありつつも、お子さんのライフステージごとにまた違った子育ての悩みがあり、日々葛藤されていること、また、グループを卒業されたお子さんが、親御様や周りの人々に支えられながら、自分の人生をしっかりと歩まれていることを、グループのスタッフも知ることができました。これからも、ダウン症のお子さんとそのご家族の交流の場として、未永く交流会を続けていきたいと思っております。

(言語聴覚士 小野村 菜穂)



お子様の発達について、こんなご心配はありませんか?
このコーナーはネットワークしまでで連載していた、親御さんからの発達についてのご質問やお悩みに対して専門職が対応方法をご説明するコーナーです。
バックナンバーは島田療育センターのホームページでもご覧いただけます。

Q

ハイハイをしないで歩いてしまったのですが大丈夫ですか?



A

ハイハイを経験してから立つというのが一般的ではありますが、ハイハイをしないからその後の運動発達に影響するということは殆どありません。立つことを覚えた後一人歩きへと進んだのであれば、赤ちゃんにとってハイハイよりも歩くという動作が適していたということだと思います。ハイハイをすることでたくさんのお子さんのことを赤ちゃんは学んでいきますが、それを他の姿勢や動作で学習できれば大丈夫とされています。

では、ハイハイでどのようなことを学ぶか一部お話しします。ハイハイは全身の筋肉を使った動きで、

手足・体幹・握力などを鍛えています。自分の体重を支えて動いていますので、骨や関節へ負荷が加わり骨格の発達を促しています。全身運動を繰り返すことで血流が増え心肺機能が高まるそうです。また、自らの意思で移動できること自体が赤ちゃんの喜びにつながると言われており、自ら移動し興味のあるものに触れ感じることで好奇心を満たし精神面の発達を促すと言われています。



赤ちゃんにとっては、どの姿勢も動作も全てその後の姿勢や動作につながる為の勉強になっています。赤ちゃんは毎日たくさんの勉強をしながら過ごしている“勉強家”であることを知っておいて頂けると嬉しいです。

(理学療法士 澁川 美喜子)

第13回

島田療育センター集談会を実施しました

6月29日(月)から、センター内における研修報告や研究発表の場である第13回島田療育センター集談会を開催しました。今回は口演5題、ポスター6題の発表が行われ、センター内の研修視聴サイトに口演発表のオンデマンド動画、ポスター発表のPDF資料を掲載し、職員は任意の時間に視聴できるようにしています。今後は感染状況に注視しながら、徐々に会場での実施も視野に開催を続けていきたいと考えています。



ポスター演題は、センター内でも掲示を行っています。

(集談会運営委員 神田 水太)

第64回日本小児神経学会学術集会

学会参加報告

3年ぶりに現地会場での発表も行われた第64回日本小児神経学会に当センターから5名が参加しました。会場は群馬県高崎市で、Gメッセ群馬というところ。会場には発表の他に家族会のブースも立ち並び、徐々に学会らしい活気を取り戻しつつあることを体感しました。



実践教育セミナー2で座長と発表を行った久保田院長

発表では久保田院長は実践教育セミナー2「誤診から学ぶ」で座長と講演を行いました。また、島田療育センターはちおうじ所長で当センターの統括副院長でもある小沢浩先生はイブニングセミナーの講演とポスター発表をされました。その他、河野千佳医師、高橋美智医師、中村が発表を行い、様々な病院の方々と情報交換や示唆に富んだご意見を頂きました。今後はこれらを論文の形にし、さらに情報発信や学術的な発展を進めてまいります。

(医務部部长 中村 由紀子)

お知らせコーナー



家族向け発達支援講座



- 9月1日 どうしてかくのが苦手なの？
「かいてみようかな」につなげる工夫やポイント
- 9月14日 親子でにこにこからだあそび
～みて、きいて、さわって、
五感で楽しもう～
- 9月26日 思春期のより良い親子関係のために
～上手な関わり方のヒント～



その他の講座の
予定はこちらから

表敬訪問に行ってきました

5月23日(月)、河理事長・木実谷名誉院長・久保田院長の3名で多摩市長(阿部裕行氏)4回目当選の表敬訪問に行ってきました。



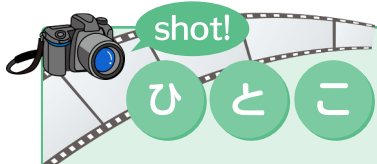
わいわい祭り2022は中止いたします

例年9月に開催しておりました、センターの恒例行事であるわいわい祭りに関して、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、大変残念ではございますが昨年度に引き続き中止する事といたしました。入所利用者様に関しましては活動自粛が続いており、数々のイベントが中止となっている事から、昨年度同様に花火だけは打ち上げたいと考えております。ご理解の程よろしくお願ひ致します。

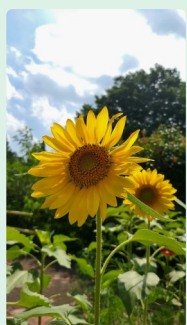


地域療育等支援事業のご案内

- ① 外来療育等支援事業(療育相談)
当センターにて障害、発達に関するご相談に応じます。
 - ② 施設支援一般指導事業
発達のご心配や障害のある方を受け入れている地域施設、機関職員の方を対象にご相談に応じます。
 - ③ 訪問療育等支援事業(訪問相談)
地域施設や家庭へ赴いて、健康診査や介護指導などを行います。
- 窓口は支援部 TEL 042-374-2101(直通)



夏の花といえば朝顔と向日葵ですが、涼を感じる朝顔に対して向日葵は太陽をイメージするせいか見ているだけで「暑い!!」と感じてしまいます。6月27日、史上最短で梅雨明けし連日37℃超の猛暑から始まり第7波まで来てしまった2022年はどんな夏になるのでしょうか？



発行者 社会福祉法人 日本心身障害児協会 **島田療育センター**
〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1

TEL 042 (374) 2071 (代表)

URL <https://www.shimada-ryoiku.or.jp/tama/>

スマホの方は
こちらから

島田療育センター



ブログ
ほっけ



フェイスブック

